

第52回「Face to Faceの会」たより

演題 I

『呼吸器外科診療における最新の話題』



呼吸器外科 診療科部長 宗 淳一

原発性肺がん手術療法は現在激変しています。最新の話題と当科の取り組みについて報告します。

①肺温存術式の発展：

- ✓ 小型肺がんに対する呼吸機能温存術式（区域切除と部分切除）の有用性が、2021年以降、複数の前向き臨床試験で示され、肺癌診療ガイドラインも改変されており、当科でも呼吸機能温存術式に積極的に取り組んでいます。
- ✓ 呼吸機能低下・術後心不全などリスクがある肺全摘を回避するために、難易度の高い気管支・血管形成術を駆使した肺温存術式を積極的に実施しています。

②ロボット支援下胸腔鏡手術の拡充：

本学導入3台目となる手術支援ロボットDaVinci Xiを活用し、精緻で低侵襲なロボット支援下胸腔鏡手術を提供できる体制を整えています。早期肺がんだけでなく、局所進行肺がんに対しても、術前導入療法と組み合わせることで、安全で精緻なロボット支援下手術を実施しています。

③集学的治療の発展：

近年、複数の国際共同企業治験により、分子標的薬の術後補助療法（EGFRチロシンキナーゼ阻害剤、ALK阻害剤）、免疫チェックポイント阻害剤の術前・術後補助療法の有用性が示され、局所進行肺がんの治療戦略は大きく変わっています。現在も、多数の新規肺がん治療薬の開発と前向き企業治験が実施されており、今後もさらに発展することが期待されています。

最新の有望な治療を届けられるよう、呼吸器内科・放射線治療科と連携しながら胸部疾患の診療に取り組んでいますので、ぜひお気軽にご紹介ください。

「呼吸器外科診療における最新の話題」

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

① 肺温存術式の発展：
✓ 小型肺がんに対する呼吸機能温存術式（区域切除と部分切除）
✓ 肺全摘を回避する難易度の高い気管支・血管形成術を駆使した肺温存術式

② ロボット支援下胸腔鏡手術の拡充：
精緻な手技が低侵襲に可能であるため、早期肺がんだけでなく、一部の局所進行肺がんを集学的治療を組み合わせ実施。

③ 集学的治療の発展：
近年、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤による術前・術後補助療法の有用性が示され、当科も積極的に実施。

最新の有望な治療を届けられるよう、様々な診療科と連携して取り組みますのでぜひお気軽にご紹介ください。

治療前 治療後

6.9cm SUVmax 16.9 3.3cm SUVmax 4.7

ロボット支援下胸腔鏡合併（第7助骨）左下葉切除術+ND2a-2

© Osaka Metropolitan University All Rights Reserved.

